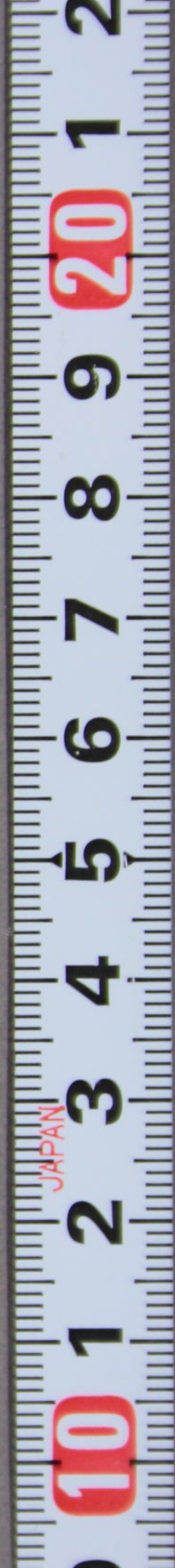
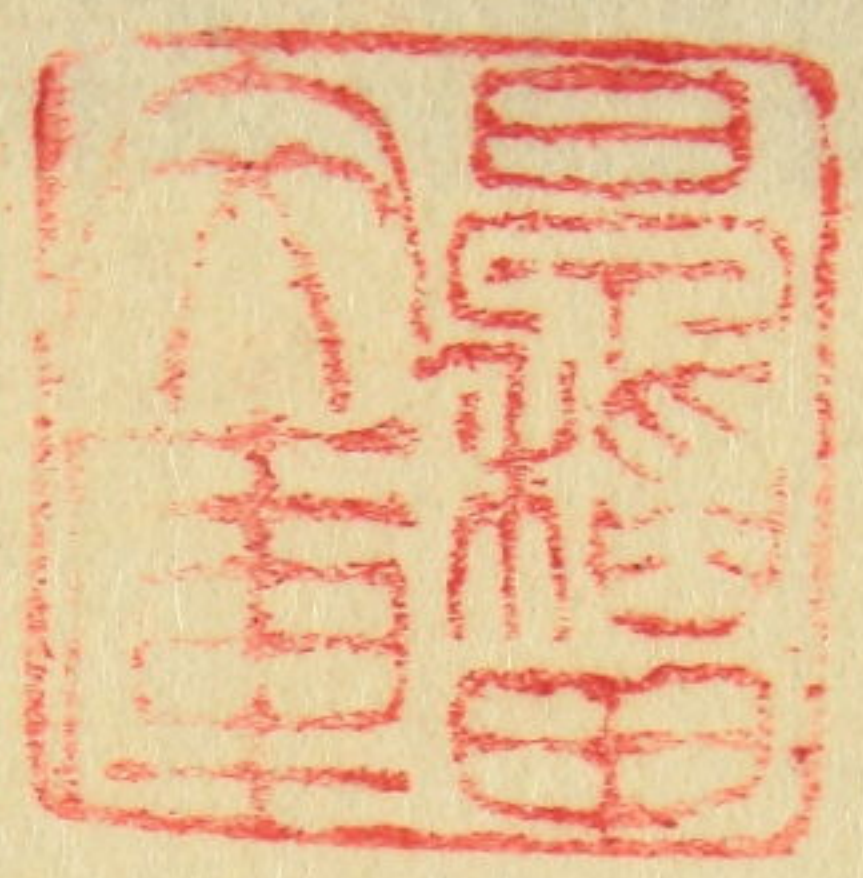


特別  
イ 4  
3159  
C81 (1)



14  
3159  
C81(1)



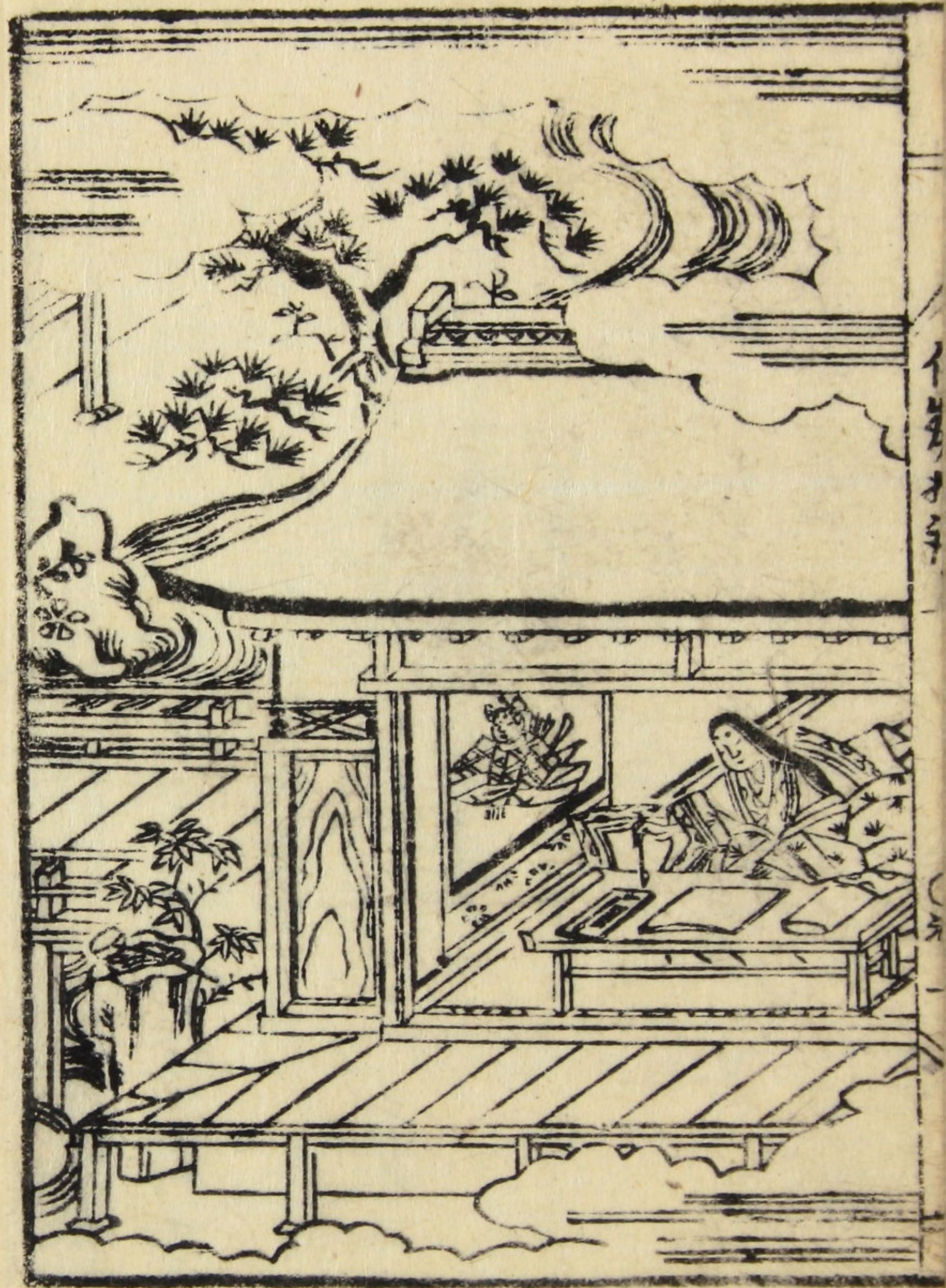
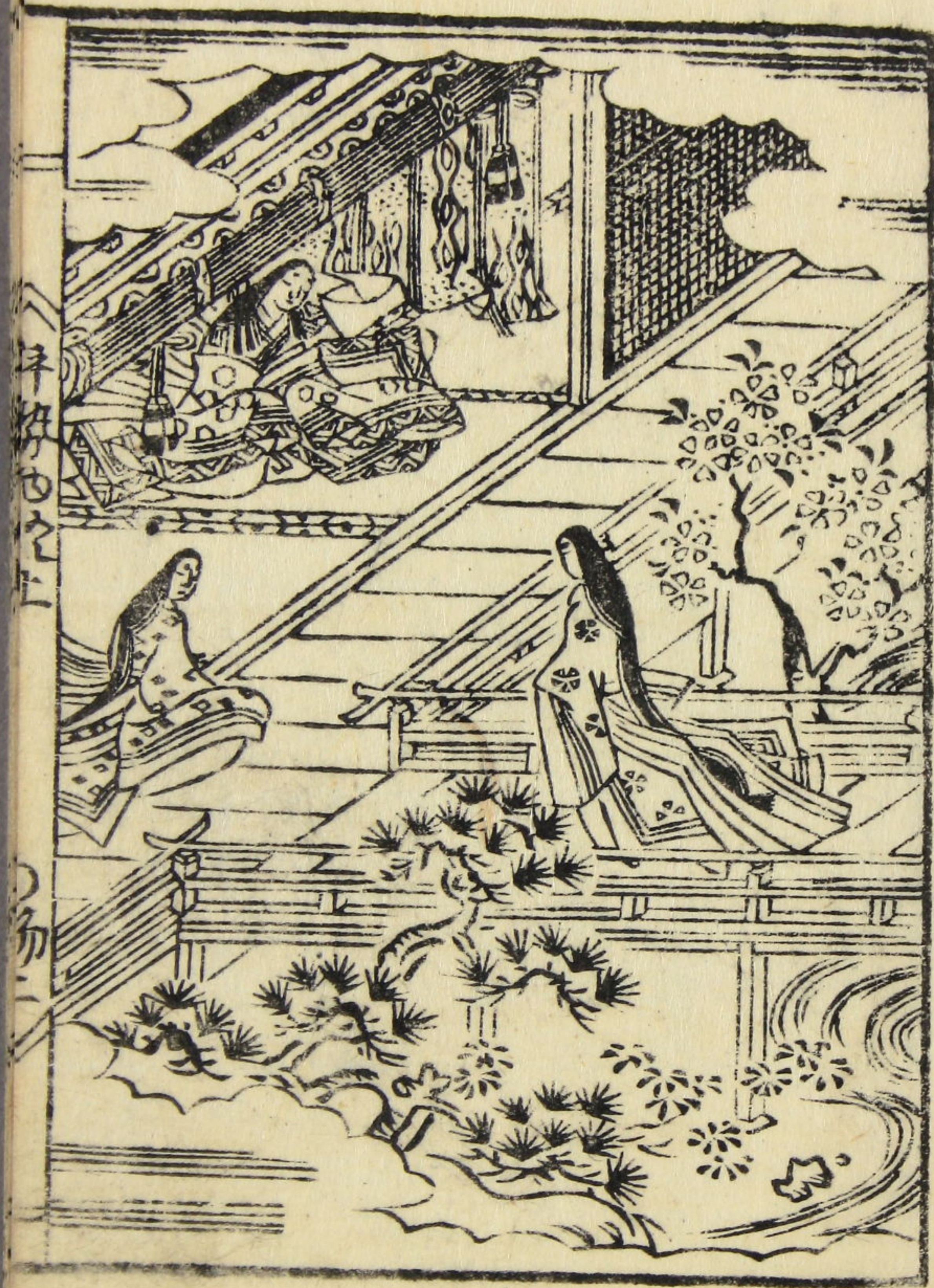
大慶

一 伊勢の終六葉車に自ら記た云ふハ伊勢流ハ乃兼信等  
有<sup>系</sup>主和号とかく以り云云程々の流とて使<sup>セ</sup>りかじ  
古人の流又兼車自ら記乃双紙ありし今伊勢と  
はく此事と云ふ事似り物流とあり  
守多院の后又七条<sup>流</sup>なりしと云ふに使せり  
一 兼車ハ五城<sup>流</sup>夫由の流<sup>流</sup>乃保親王ハ又男あり  
涼和天皇代天長二年兼車良の系とてせられたる  
陽成院の元慶元年右近兼車<sup>流</sup>乃保親王に任せり



平家物語

卷一



在京にて又男ある流在申中將らう。元徳はま月  
北白より一十六家にて卒る家三家坊にたつ  
会はぬもす也

一は勢八侍分守継流はしよめ日野乃元徳未だ  
乃長孫より一宗后又えは入れ女房也。

宗未は壽の 寵を乞ふ所く初明の親王とせり  
よるそ侍母北河息所也。家二家宗のさう  
いんよちと也

ひうし男うぬさかり 一はあめうの系  
うはがれ里し一さるよ一とくからとれ  
いんさうしとらふいしあまのちてくる女あまつ  
うしはちりげ男のさまみくがり。ちりか  
がら里に。いんさう一ぬさくしてあけし  
つら田のらうけり。かりあぬのすそぬ  
さうさく。壽がたさそぬ。さう男志のふむ  
こはらりあぬとあんまいころいさつ  
あまのこらひらひんたのさうさく

あぶつてさうらうさうらうと  
やうかんといひてそれらからけりけり  
わさうわさうとさうわたりいさん  
みらぬくのあぶつてさうらうらう  
さうらうさうらうとさうらうさうらう  
やうさうらうらうらうらうらう  
さうらうらうらうらうらうらう  
昔男あさうらうらうらうらうらう  
人のあさうらうらうらうらうらう







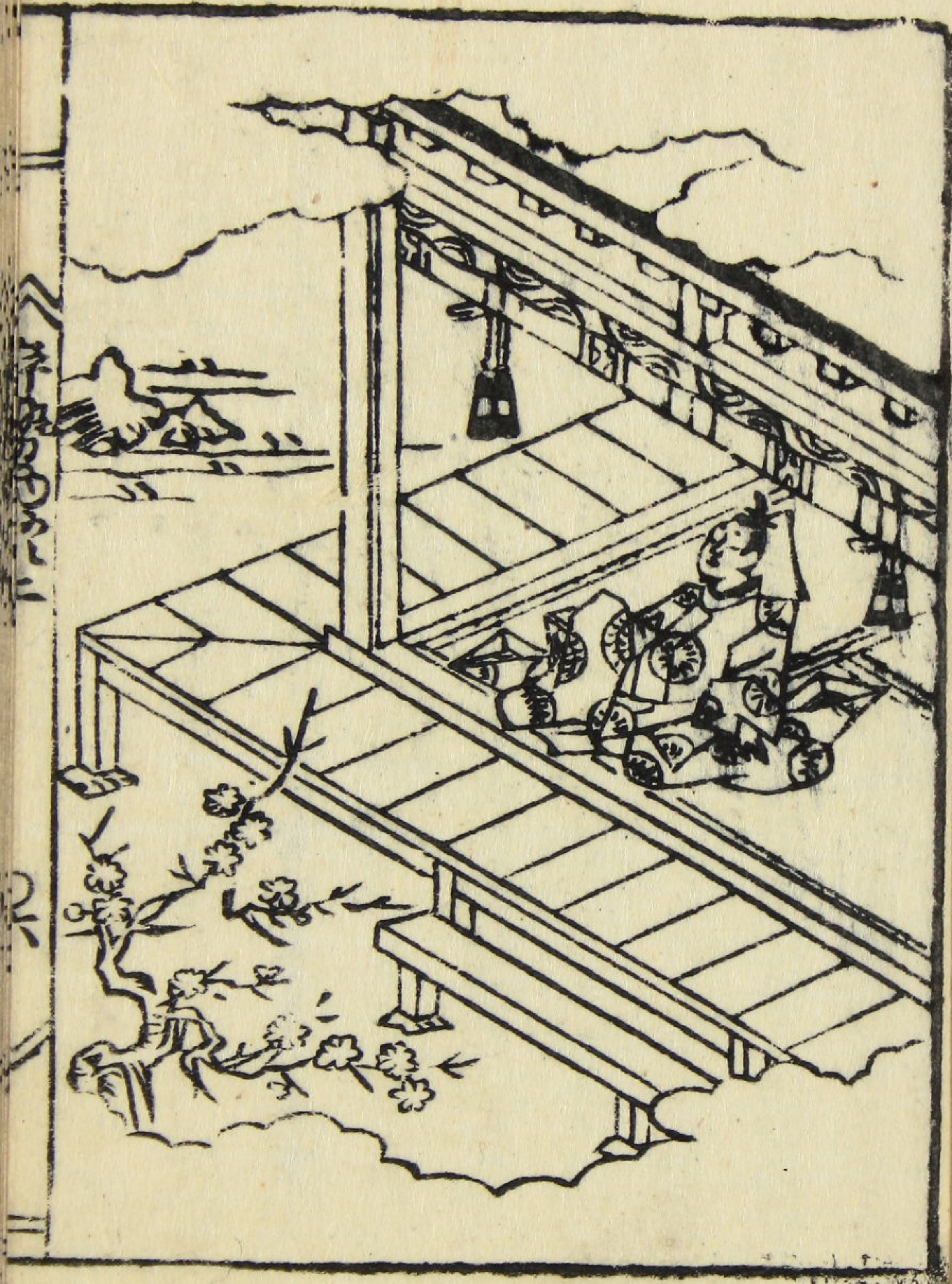
伴作の巻上

四〇

びどきりといふ物に成るる事  
 ありあつた津に宿よねの事  
 ありさう物よの袖とさうの事  
 二条の宮にまうてんぐりよとほつとつ  
 つまねてしきりてんまてれとけり  
 の事也  
 首りんぐりの五條へおふてんぐり  
 まつりてまうけるものよは人合を  
 してまうてんぐりてんまてれとけり







ありきれど何のど愛しきくそのがらひ  
 らぬ愛はこころをすくすくさのせけ  
 せむい者ごとくえあをでうつとまり相送り  
 人あまぬ我通らせせれりる和采き  
 一巻くこころをうらりて候あん  
 こよりのとけはいとくさうかやとまり。  
 何れぞゆかにしてぐり。二葉のまき死よ。  
 あびくあつけるはなれあゝあまをれだ。  
 せうとてしらね片りの路あましむけのまぞ

悲し〜男。あつくり。女のさうまうでうけり  
と。いひく人さあぞよまひのさうりちりかばし  
てねとみあぐいとくききりききりつて。  
つた川せりの川をぬでいさげもを  
葉のさうりさうりけぬあぞうれさた  
がとあん男のうらひなありひさ見ねく  
あつと又よまれたむいああよとあつと裸  
さつひらからうらひありぬよいまあつと  
たれどあつとぬらうらひ。あつとをねく

あつと〜いさして男のうなあつとといとあつとあ  
どららにといとあつとあつとあつとあつとあ  
つ。あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
えあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ

伊勢神宮

毛けニ葉乃。后のいとこれ。女御のいりた  
はうまのつるやうそわあつりける  
がうられいと先でこく。おらうれだぬと  
そわいして出そりりける。女御のいりた  
乃おらうたうらうら。おらうれだぬと  
らうらうそわあつりける。女御のいりた  
人あつとそわあつりける。女御のいりた  
るうらう。それをうらうら。女御のいりた  
わらうそわあつりける。女御のいりた





男。お。か。ん。け。を。ま。つ。ち。に。ま。つ。ち。に。  
お。か。ん。け。を。ま。つ。ち。に。ま。つ。ち。に。  
お。か。ん。け。を。ま。つ。ち。に。ま。つ。ち。に。  
お。か。ん。け。を。ま。つ。ち。に。ま。つ。ち。に。  
お。か。ん。け。を。ま。つ。ち。に。ま。つ。ち。に。  
お。か。ん。け。を。ま。つ。ち。に。ま。つ。ち。に。



あまのくぬ。あまのぬのびり。糖のそり

入る

信送あつちさぬはけり。三糖

とらくし。人のちもどが先ぬ

昔男。あまの。その男あまをさうぬか

そのよさひさし。氣。はあじはま

のちいとしむら。いあひとちあひしめり

し。いり。あまのひらり。あまのちりし

し。あまのちり。あまのちり。あまのちり

信送あつちさぬはけり

〇九



夫が夜にうらまれあしはま〜ちまに  
けあぐ〜このる強〜うらま  
と強〜まれのまが人のあしきうらま  
原着〜あがまぐい〜うらま〜して  
すらがのま〜あうぬら〜のあしき  
あ〜ん〜の〜うらま〜が〜あ  
つ〜ま〜の〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
か〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

斗うらひのちがひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ

あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ  
あまのうらひもいんね〜あまのうらひ

平家物語

四十一





うそにま酒よ。ぢるぢる。おとらひ。かき。ま。い。こ。人  
 う。ぢ。ら。き。ん。と。り。ひ。ま。ら。か。ぬ。ぢ。あ。ん。わ。て。あ  
 人。よ。ぢ。ぢ。き。ら。う。け。ら。ま。た。ぢ。あ。ん。人。ま。て。ぢ。あ。ん  
 友。あ。あ。う。け。ら。ま。て。あ。ん。ぢ。あ。て。か。ら。う。人。今。う。と  
 ち。い。け。ら。あ。い。い。ん。ひ。ま。ま。て。よ。ま。あ。あ。う  
 け。ら。ま。て。あ。あ。ん。う。ま。ま。う。に。あ。う。が。ん。う  
 ぢ。う。あ。う。ま。ま。あ。

みうしぢくきよのむのうもいこあまよ  
 高ぶちうしそくうらやかうあり

いづれか

我が方にいふはあつたか

そのいふはあつたか

世あ人の國してはあつたか

世あ男が女にあつたか

いふはあつたか

世あわが女はあつたか

あつたか

世ああつたか

世ああつたか

世ああつたか

世ああつたか

世ああつたか

世ああつたか

世ああつたか

世ああつたか

世あ

世ああつたか

世あ

世あ



うふ〜。おとこ。く〜。う〜。お。う。い。ま。い。ち  
 じ〜。あ。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち  
 き。い。ま。い。ち。あ。い。ま。い。ち。  
 ひ。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。  
 う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。  
 う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。  
 う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。  
 舟。男。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。う。い。ま。い。ち。

そのあり女新のんかちづらりわぢがらん  
 ぢらりぢらりぢらんぢらんぢらんぢらん  
若衆  
 中くに無くぢらりぢらんぢらんぢらんぢらん  
 あるらんぢらんぢらんぢらんぢらん

奇んぢらりぢらんぢらんぢらんぢらんぢらん  
 ままぢらりぢらんぢらんぢらんぢらんぢらん  
 ぢらりぢらんぢらんぢらんぢらんぢらん  
 ままぢらりぢらんぢらんぢらんぢらんぢらん  
 ままぢらりぢらんぢらんぢらんぢらんぢらん

らんらんらんらんらんのねらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん

らんらんらんらんらんのねらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん

かくはりのさうりせたりとあんどさばら  
 船さあびとつねにさうりせはせん  
 しうしんりまうひのふんきりてかんよ  
 のみよにけふまうりてさばあひまを  
 海をせうりつらうりにまればのつひん  
 のごもあひん人さるまうりてあひん  
 うあろしといひのさうりてあひん  
 しんをさしてあひんさうりてあひん  
 らあひんさうりてあひんさうりてあひん



舟のさうり

されらる女かうし〜なまわしてつわぶら  
 く成もちののらにぞらとせぬこあ入  
 ゆくは男は〜なまわしてつわぶら  
 まれ今は〜のこあ入  
 づ〜なまわしてつわぶら  
 ち。新んは〜のこあ入  
 り〜なまわしてつわぶら  
 い〜のこあ入  
 ち〜のこあ入

八平はかぶら







清ずいありていもむとかなまうや  
 女め哥かいしじんありまれば心うんとてあはれ  
 うらうらあそびあそぶがさこのりし人なほ  
 何よ白ふいづちしきりくま  
 校がとさきしりしちさきも  
 ねとてあそぶしりしと見けを  
ねとてあそぶしりしと見けを  
 ねとてあそぶしりしと見けを  
 ねとてあそぶしりしと見けを  
 ねとてあそぶしりしと見けを

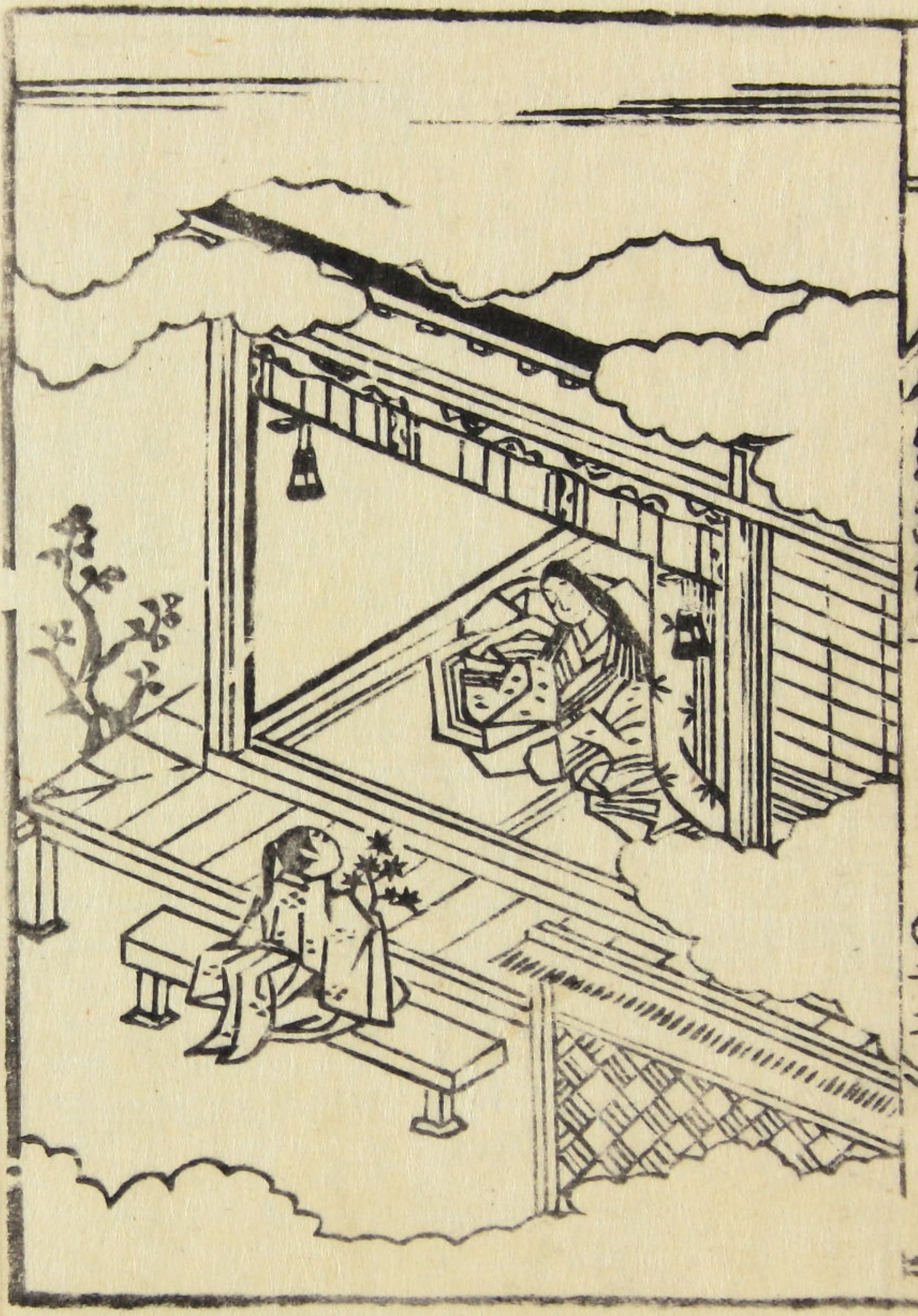
平家物語  
 卷之五

平家物語  
 卷之五

二七







かしら秋の紅葉しに  
 してはつらにけしきも  
 ちかんとくもあつても  
 つらまに様ふ文に  
 君が里に  
 昔が  
 ちかんとくもあつても  
 つらまに様ふ文に  
 君が里に

昔の  
 君が里に





うむ

ワとれあうかこいゆあうを

あしあういふあういふあうを

まういふあういふあういふあうを

あういふ

あういふあういふあういふあうを

あういふあういふあういふあうを

あういふ

あういふあういふあういふあうを

あういふあういふあういふあうを

あういふあういふあういふあうを





くづぐろくろくお姫もこころぬ

まがしめくまよして誰うけづい

そどろくくしてほわよからめてくきよ

まろ。相違はかり終るまおわおくたよ

つこなくぬまこいりあこころらふいお

こそあらんあこころの國をわ

いれぬくふかふかまきくまきくまろ

らつこまれどいりのあぢいあかき

まきあこころあやうらあだおんこ

てこぼろわあらんあかきこころあ

せんざうあかきくれわくかづら入いあ

ふかよそまれのあぢいあかきあかき

うらあぢいあかき

あかき 風吹きたるの白波をうら

よらうやまこころあかき

と。後けつあまあく限あかきあかき

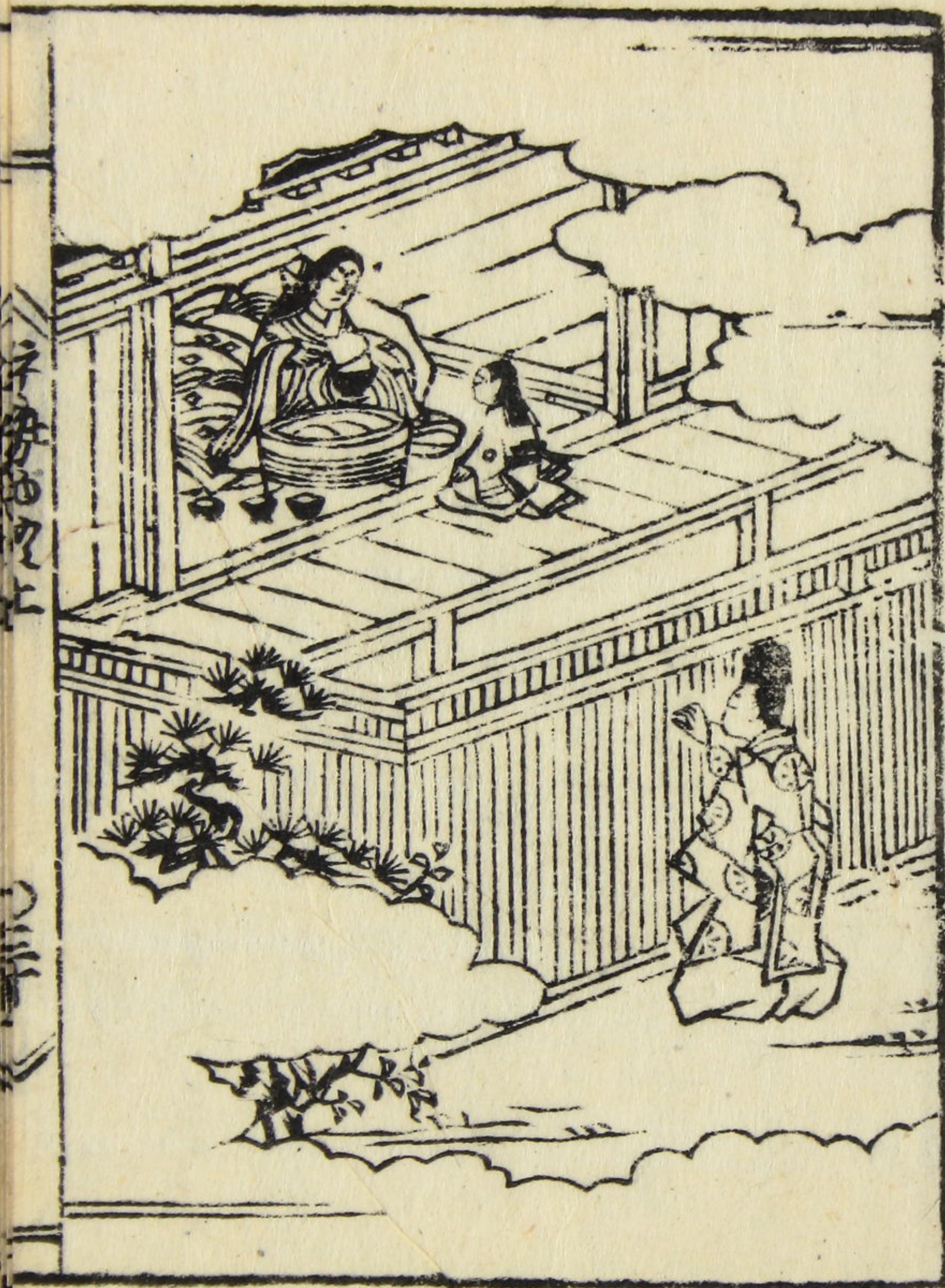
かづら入いあかきあかきあかき

あかきあかきあかきあかきあかき

くもつゝつとまれ今のおとけまてつゝ  
るがひらうてあごせうらゝあまの  
あともてあうらてらばあまらうら  
まれどいぬやまのうとやうて  
あまあまがあうらうとて換らるる  
いぎかぐしそあうらとて  
とつばあえんごはよがうてあま  
ぐんらうらうらうらうらうらうら  
くあまも

あつんとつゝあまのあま  
そのあまよくあうらあま  
あまのあまあまあまあまあま  
昔男うらあまあまあまあま  
いとく別あまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあま





奇とあんならば〜  
 ありまれのこの〜とゆる〜  
 なる〜  
 と〜  
 様らまゆ〜  
 我き〜  
 と〜  
 様らびげ〜  
 の〜

とつひにたゞい男たゞいうらよまらさめたゞいからとて  
くしてあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
信ちたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
思たゞいふにたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
あつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
我身たゞいのたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて

とつひにたゞい男たゞいうらよまらさめたゞいからとて  
くしてあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
信ちたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
思たゞいふにたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
あつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
我身たゞいのたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて

<sup>たゞい</sup>秋たゞいにたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
あつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
又たゞいこたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて

<sup>たゞい</sup>秋たゞいにたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
あつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
又たゞいこたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて

あつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
又たゞいこたゞいあつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて  
あつたひいらひよたゞいるまはとてとくつて

新直

神



水は下りてりり色く

若色わかいろころりあうけりからあぐらよきれ

あそくくわいあひんあはれさ

あひりりりりと誇りきり

若わかくくくまえれ女御乃おんみこの苑のの苑の

りりりりりりりりりり

若わかくあひあひりりりりりり

きりりりりりりりりりり

若わかくくくくくくくくくく

若わかくくくくくくくくくく

きりりりりりりりりりり

若わかくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

若わかくくくくくくくくくく

若わかくくくくくくくくくく

喜  
いあ〜(のき)のぼろちゆみく〜  
若くは〜  
いづ〜

若くは〜  
いづ〜  
若くは〜  
おけ〜  
あ〜

若くは〜  
いづ〜  
若くは〜  
おけ〜  
あ〜

〜

いづ〜

若くは〜

いづ〜

若くは〜

いづ〜

若くは〜

いづ〜

若くは〜

いづ〜

四 きての故もらんぞいふ  
 着わかれりるあはれみはしらぬ  
 六 かりいふ

昔ぞとみ<sup>い</sup>たふとく人あふぶら

娘んらんよわづらふあはれい

五 ひしがさみまのさあつはらあはれい

うきうきうあはれもあはれい

家あはれ下あはれあはれい

夕うがさみまのさあつはらあはれい

返一

かくりして娘びー細と精一

夕うがさみまのさあつはらあはれい

六 昔このあはれいあはれいあはれい

てとくきりにあはれいあはれい

君かりんあはれいあはれい

人あはれいあはれいあはれい

かる

あはれいあはれいあはれい

夕うがさみまのさあつはらあはれい

五十四

一 恋とふいぬいさひのうらみ

若西院のみうとゞりをもんぐいなるまう  
まらまら侍のよみきまうのことやうにまをそ  
らとまう。まかんとうせめいあはまうがうり  
あ。そのまねまうかるとけり男はまうりえ  
んとて女車うしあいのりまかうりまう  
くううわくいとまもくはうらあはてをまぬ  
へりけりあひまのまぢのぬい色ごのまの  
まうまう人まもあまらには車と女車とみて



若西院のまうとゞり





あいらわもまらりていへばいふもあつた  
 けふとまひしる。男らの後とまらばあつた  
 かうーさうー。おそあつた。いふ男あつた  
 後

出さういあを張らりわあつたのさかん  
 ありさういあを張らりわあつたのさかん  
 後とまらりていへばいふもあつた  
 けふとまひしる。男らの後とまらばあつた  
 かうーさうー。おそあつた。いふ男あつた



よきればゆづりく較そそきり。かみ入  
 りの斗に<sup>入</sup>入る。又れ目のいぬれ時斗よ  
 あんかきり。あきらた出さうけり。若のわろ  
 人。なほとけぬあひとあん。けり今  
 此<sup>此</sup>美あ。かきあ。あんとせ

若あ。あきり。あきあ。あきり。あ  
 一も男あま。あきり。あきり。あ  
 かい。あきり。あきり。あきり。あ  
 り。あきり。あきり。あきり。あ

あきり。あきり。あきり。あきり。あ  
 かい。あきり。あきり。あきり。あ  
 若る男あま。あきり。あきり。あ  
 かい。あきり。あきり。あきり。あ  
 ちりしと

東<sup>東</sup>葉の色らぬ想ひをまのこ  
 せあ。あま。あま。あま。あま。

青男色ころももきろくくもあはしり  
 まろくれどあつこもあつあつも  
 くもあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつ  
 三日あつあつあつあつあつあつ  
 出しあつあつあつあつあつあつ  
 三日あつあつあつあつあつあつ

青男色ころももきろくくもあはしり  
 まろくれどあつこもあつあつも  
 くもあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつ  
 三日あつあつあつあつあつあつ  
 出しあつあつあつあつあつあつ  
 三日あつあつあつあつあつあつ

青男色

あつあつ

あはれにまゝにさへくつたかゝる心もなほ  
唐おほいなるいふれをいふ  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ  
わが後世もあつたけりかゝる  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ

あはれに

あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ  
あはれに月もあつたけりかゝる  
唐おほいなるいふれをいふ



まつぎとてあつしつぎつらつぎつぎつぎつぎ  
 つぎつぎとてあつしつぎつらつぎつぎつぎつぎ  
 初冬なり。時きこらまはのほつらつらつらつら  
 貴しあつしつぎつらつぎつらつぎつらつらつら  
 やつすしつぎつらつぎつらつぎつらつらつらつら  
 ながつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 けつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 けつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 くれつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

こもしくねくおぞうあーあ

**異** 若かこいしとらりりしき友もさるもつし時  
ゆらばゆらのおむろふ人のあつしとふゆと  
いと養いあひまが別せしりきり。月見て  
とせとゆ文し。あさあしええたのめん  
せぐ月見の人よけあしとあねやああひり  
きんとりしとあひまむとあんゆる。世中  
の人あつらうれを忘れぬとふおよさう  
あがましとらりきれが後てなふか

あつらふあつらふあつらふあつらふ

けしあまねたあつらふけしし

**異** さうし。ちうし。福んはよらうとあめあま  
あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

あつらふあつらふあつらふあつらふ

あつらふあつらふ

あつらふあつらふあつらふあつらふ

男男 俵一ノ郎也其子也其子也其子也  
ひらき。男ももりもるりもかひけえんそ  
人と持けろし。いざろとせられた

今ぞしほくろくたあと人海らん  
里とむれむらりもくろしむらり

